日本福祉大学経済学会・日本福祉大学福祉社会開発研究所『日本福祉大学経済論集』
The Journal of Economic Studies, Nihon Fukushi University
第22号　2001年2月

〈随　想〉

中国の経済発展：その体験的点描

――中国発展10年の印象――

The Outstanding Impressions of the 10 years of Developping China

岩　田　奇　志
Kishi IWATA*

Abstruct

In this essay, the outstanding impressions of the 10 years of developping China, that is, 1990, 1993, 1996 & 2000 CHINA. were dipicted.

今年，7月から10月にかけて，中国を訪問した．筆者は，1990年当時北京の清華大学で教鞭を取っていたし，1993年には上海と合肥・武漢・西安・十堰・北京と6市を訪問，1996年には，上海と合肥を，そして，今年2000年には，北京と合肥を訪問した．

この10年間の中国の変化は，「すさまじい」という形容が当てはまるほど激しい．ちょうど毎日見ている自分の子どもの成長ぶりはなかなか目につきにくいが，3年毎に会う親戚の子どもの成長ははっきり見えるのと同じで，3－4年毎に訪れた筆者の目には，その変化は段階的といっていいほどに際立って見えた．

1990年の中国：

1978年に改革開放政策が始まって，10年以上を経過した1990年，北京でもまだ，流しのタクシーを見つけるのが困難な状態だった．ホテルから電話してタクシーを予約したにも関わらず，タクシーがいつまで待っても現れず，バスや少し割高の「小公汽車」（小型の乗合バス）を乗り継いで，やっとの想いで目的地に達したこともある．

この頃，ひとびとは，輸送が必要な場合，主として自分の所属する「単位」（danwei）が提供

* Part-time lectuer, Nihon Fukushi University
Former faculty Qinghua University

してくれる車に頼っていた．このため，「単位」を持たない外国人旅行者には，不便なことこの上なかった．

まだ，古い時代の規律に郷愁を感じる人々もかなりいて，向銭看もそれほど目立ってはいなかった．この年，北京空港まで送ってくれた女性の運転手が，筆者が奮発したチップを丁重に断ったのが，今でも印象に残っている．その後猛烈な勢いで広がった向銭看の，時にえげつないほどの盛り上がりぶりとの対比で，その物静かな物腰が鮮やかに蘇ってくる．

当時，デパートは，電力不足のため，天井の蛍光燈を殆ど消して商売をしていた．昼食時ともなると，金属製の器に質素な料理（混ぜ飯のような料理が多かった）を入れた店員たちが，人目もはばからず，売り場の壁にもたれて，立ったまま平然と食事をしている姿を，そこここで見掛けた．

まだ，商品の種類も乏しく，店員たちの接客態度も，尊大そのものだった．物不足経済の中で，売ってやると言わんばかりの態度が目立ち，気に入らないとすぐに怒り出す．頼んだ商品を，よく探しもしないで，平然として「没有」（無い）という．買った商品をポンと投げてよこす．この頃日本でのサービスのよさが身に沁みたものである．

店員の態度といえば，当時レストランのウエイトレスの態度も酷かった．多くのレストランでは，ウエイトレスたちが，客を無視しておしゃべりに興じていた．あるレストランでは，いつまで待ってもやってこないウエイトレスに，「お願いします」とばかりに日本風に合図をしたところ，「お前がこっちに来い」とばかりに，あごをしゃくられ，愕然としたこともある．

1993年の中国：

しかし，1993年の中国では，様相はかなり変化していた．まず街には，新車，オンボロ車取り混ぜて，タクシーが溢れていた．黒い排気ガスを平然と撒き散らしながら走る車の群れに，思わず顔を顰めたものである．この頃タクシー営業は，小資本で儲かる商売の筆頭に挙げられていたようである．とは言え，運転免許を取るのにかなり金がかかり，軍隊で免許を取った人か，当時の庶民としてはかなりの「初期投資」をした人しか免許がないため，競争相手が制限されていて，かなり収益のあがった時期もあるようであった．

車はぼろが多かったが，運賃も安かった．2日間タクシーを雇って上海の街を見てまわったが，なぜか，約束した料金に，何の説明も無いままに，2割ほどの料金が，上乗せされていた．

西安では，ドイツ車を操る運転手を3日間雇った．車が気に入ったからである．ところが，初日はこの車で走ったのに，2日目からは，別の運転手が，オンボロ車を運転して迎えにきた．下請けをさせたらしい．この運転手は，いかつい顔をしていたが気のいい人物で，2日間彼のお世話になった．ところが3日目の夕刻，最初の運転手が現れて，かなりの額の追加料金を請求してきた．理由を尋ねると，「あんたは黙って支払えばいいんだ」と言う．全く筋の通らない要求である．

十堰市でもトラブルに巻き込まれた．兌換券（その後廃止になった）が少なくなったので，銀

行に立ち寄って，円を兌換した．すると運転手がわざわざ車を降りて，兌換の現場をを覗きに来た．いやな予感がしたが，果たせるかな，「金持ち」(!) に違いないと大いに吹っかけられた．この街に居住する友人が抗議したため，険悪な空気となり，結局言いなりに支払うこととなってしまった．警察に訴えても，彼らはたいてい警察と顔なじみで，問題の解決にはならないとのことであった．タクシーの中には，2000 年の今日でもなお悪質なのがいるので注意を要する．今年の訪問で，合肥空港では，普通 14 元で走る距離に対して 80 元とふっかけられた．結局 30 元まで値切ったが．これが中国流のやり方である．

この頃，しかし，レストランは，大きく変わりつつあった．日本からきた友人たちを案内して，中級のレストランに入ったところ，様相は一変していた．われわれ 6 人の客に対して，3 人のウエイトレスがつき，湯飲みのお茶を半分ほど飲むとすぐにお茶をつぎ足してくれるといったサービスぶりであった．同じ部屋に 5 人ほどの中国人客がいたが，一人のウエイトレスもついていなかった．当時，金持ちの外国人相手に良い商売をしようと，「外国人に親切にせよ」と言う業務命令が出回っているというわさを耳にしていた．

この頃，上海や北京などの大都市では，すでに物資が豊富に出回っていて，立派なデパートビルがそこここで新築されたりしていた．照明もかなり明るく，商品も品よく飾られていた．筆者の友人たちは，やすい絹の布地などを夢中で買い込んで，お土産にと持ち帰った．友達へのお土産にと，石の印鑑を 36 個も作って帰った人もいる．皆すごい買い物をしたと満足して帰ったが，帰国後使ったお金が余り少ないので 2 度びっくりしたと聞いている．当時ものは豊富になっていたが，物価はまだ安かった．

1996 年の上海・合肥：

この頃の上海は，ものに溢れ，デパートは，華やかに彩られていた．絹の布地は，目が眩むほどに並べられていたし，実によく工夫されたおもちゃ類が溢れていた．1993 年，まだ数年前の北京で，中国の友人から送られたおもちゃは，スイッチを切っておいても数時間で電池が消耗仕切ってしまうような代物であったが，1996 年に買って帰ったおもちゃは，その後数年立ってもまだ，子供たちが楽しんでいる．この頃特に驚いたのは，電子的教育機器の発達であった．簡単な装置ながら，実によく工夫された機器が出回っており，子供たちが楽しみながらスイッチを押すだけで，さまざまのことを学べる仕組みになっていた．

繁栄は合肥（安徽省の省都，人口 100 万超）のような内陸部の都市までは，まだ十分には達しておらず，デパートには冷房装置もまだ入ってはいなかった．ある暑い夏の日，デパートをたずねると，売り場のいたるところで，扇風機が回っていた．そのすべてが店員の方を向いていたのは可笑しくもあった．まだ「店員様は神様です」といった感覚が残っていたのだろうか．もっとも，客は通り過ぎるだけだが，店員たち小一日そこに立っているのだから，一定の合理性はあるといえる．しかし，他方，買い物客たちは，売り場から売り場へと，汗を流しながら買い物をすることになる．

2000年の合肥・北京：

1997年3月に出版した『国際比較の視点で見た現代中国の経営風土――改革開放の意味を探る』の序文の中で，筆者は次のように書いた．

ある中国の友人が言った．「この国が経済発展をとげたら恐ろしい国（強力な国の意）になるぞ．でも余りにも障害が多すぎる」と．

これまでさまざまな形で指摘されてきたように，中国は，一方で複雑に入り組んだ無数ともいえる困難を抱えている．しかも他方，中国は着々と発展の道を歩みつつあるかに見える．この2面性は，中国人にとってだけでなく，中国に関心を持つ外国人にとっても，大変に興味ある問題である．多数の困難が絡み合った（interlock した）網の目を，中国は果たして突破（break-through）できるのだろうか．

この様な興味深くかつ評価の困難な問題を抱えているため，中国に対する評価は，時代により人により大きな振幅を示す．ここ10年程の間にも，中国に対する評価が，「迷走する中国」，「もう花は咲かない」，「滅亡へ直進」といった絶望的ともいえる評価から，ほぼ1993年を境として，「目覚めた獅子」，「世界経済を席巻する」，「21世紀は中国の世紀」といった180度の展開といえるほどに揺れ動いている．

読者も，その論調の急転回，その変化の急激さと振幅の大きさとに一驚されることであろう．そして最近また，中国の過大評価ともいえるような論調に対するある種の反省が出始めている．中国の真実はどの辺りにあるのだろうか．

この様に，中国は，関心を持たないで過ごすには，「面白過ぎる」テーマであると，著者は考えている．そして，この問題を明らかにする上では，政治論や経済政策論だけでなく，むしろ変化の激しい経営システムの分析が，これらに劣らず重要である．経営システムの改革が成功するか否かは，中国の今後の経済発展と大きく関わっているからである．

しかし，2000年7月，中国を訪問したとき，まず強く感じたのは，中国が山積する困難を一つ一つ解決しつつあるという印象とともに，「中国の経済発展が大きく軌道に乗ったのでは？」という感慨であった．それは4年前，1996年と比べても，一段階の上昇が感じられたからである．この訪問で強く感じられた点をいくつか挙げると，

1）　まず商品の質が格段によくなっていることである．

2）　第2に，これまで大型デパートと品数の少ない小商店という構成が強く感じられたのに対して，大型スーパーが，あちこちに出現し，明るくて品揃えの多いスーパーで，買い物が非常にし易くなったことである．日本にあるものはたいてい何でも揃うという感じである．流通網の一段の発展が感じられた．

3）　デパートの電器店には，高級電化製品がところせましと並び，展示されているDVDやVCDなどの機械類の多さ，店員の説明の懇切さなど，日本を超えているといった印象さえ

受ける．

語学の教材など，磁気テープを使用するものは僅かとなり，ビデオテープさえも片隅に追いやられているありさまで，その主流はVCDに，そしてやがてDVDに移ろうとしていることである．後発効果であろう．日本では，広く普及したビデオがまだ十分使えるために，なかなかDVDへの転換が進まないのに対して，後発の中国では，殆どビデオが普及しないうちに，より進んだVCDやDVDがどっと市場に出てきたために，このようなビッグスパートとなったものと思われる．

DVDはその様式によって，世界は6つの地域に分かれるが，中国製のDVDは，そのすべての様式に対応しているという．何故中国がそんなに進んでいるのか不思議に思って尋ねると，その説明がまた面白かった．それによると，他国では海賊版が少ないので，自国に普及したDVDが読み取れればそれでいいが，中国では世界各国からのさまざまなDVDの海賊版が溢れており，そのすべてに対応した機械でないと見向きもされないのだという．ある中国人の留学生が，各都市に海賊版のマーケットがあり，WINDOWS 2000 なども10人民元，約140円くらいで手に入るという．日本では，密かに行われている「知的所有権の侵害」が，中国では堂々と，かつ大規模に行われている模様である．

確かに，中国では，海賊版に対する罪の意識は全くといっていいほど見られない．いわば典型的な途上国型であると言っていいが，その結果作りだす機器が，もっとも進んだものになっている．「中国恐るべし」(!?) である．

筆者も，中国製の教育用DVDを活用するために，機械を1台買い込んだ．この機械は90ボルトから250ボルトまで対応している．中国で家電製品を買って帰るなど，1996年には想像だにしなかったことである．

4) 中国人の意識が変わりはじめたことである．

① まず，少なくとも豊かな中国人の意識には，ゆとりができ，ギスギスした気分が大きく変化しはじめている．90年頃には，まだ人情が何かトゲトゲしていた．この頃，自転車で人にぶつかってきて，怒鳴り声を挙げながら走り去る人を多くみかけた．筆者の友人も同様な経験を持っている．歩道で友人にぶつかってきた人物は，大声で怒鳴ったが，友人が「対不起」(ごめんなさい) と謝ると，外国人と分かったのか，相手も「対不起」といい直して，自転車をひいて立ち去った．何か，微笑ましさの残るすれちがいであった．

また90年には，二人の女性が，デパートの前や繁華街で，互いに相手の髪をかきむしり，大声でわめきながら取っ組み合うという，日本ではかつて目にしたことのない壮絶な光景を2度目撃している．しかし，2000年，中国人たちは，はるかに穏やかで，時に礼儀正しくさえあった．

② 今回インタビューした経営者たち（成功した経営者たち）は，特に信用を大切にするようになっていた．これまで，多くの中国人たちは，家族や友人たちに対する面子や信用を大切にしてきた．しかし，市場経済で経験を積んだ経営者たちの多くが，不特定多数の人々

に信用されることの重要性を理解し始めている．このような雰囲気が，大経営者たちの間ばかりでなく，至るところで感じられるようになってきている．デパートやスーパーでは，食品やお菓子など，商品が少し古くなると，メーカーに返している．商品に対する顧客の信用を大切にするためである．最近起こった雪印事件の緩んだ意識と対比すると，ある種の緊張感が伝わってくる．

売った商品に対するアフターサービスも，最近かなり徹底した形で行われている．ある蓄熱式電器温水器のメーカーは，顧客からの要請がなくても，技術者を定期的に巡回させ，保守点検に当たらせている．

（付記）もちろん今日でもまだダマシがなくなっている訳ではない．今回の訪問で筆者は，箱入りの見事な椎茸を一箱買ったのだが，透けて見えるところにだけ立派な椎茸を並べ，その下には，品質の悪い椎茸が押し込んであった．

③　ルール意識が強くなりはじめた．合肥市でインタビューしたある経営者は，公園でのお茶売りから，巨大な企業集団を作り挙げた大成功者であるが，法を守ることの重要性をしきりに強調していた．中国に対する旧来の考え方から抜けきっていなかった筆者は，これに対しては若干の違和感を持って辞去したのであるが，その後，中国に置ける最近のルール意識の一端を示す，興味ぶかい事例に出会った．

先に触れた電気温水器の保守要員が訪れた時のことである．この温水器は，常時電源をオンにし一定温度に達すると，自動的にスイッチがオフになるように設計されている．しかし老夫婦2人にとっては，シャワーなどごくまれに温水を必要とするに過ぎないので，電源でスイッチをオフにできるような工事を望んだ．コンセントを引き抜くと，200ボルトのせいか，次にコンセントを差し込んだときに火花が散り，コンセントがダメージを受けるからである．しかし，機器がそのように設計されていないので，この会社にはそれらしい部品が無い．老夫婦は，「領収証と引き換えにお金は払うから」と執拗に食い下がった．しばらく押し問答をした挙げ句，この補修要員が申し訳なさそうに言った．「私たちに会社のルールを守らせてください．ご自分で部品を手に入れ，お電話を下されば，いつでも無料で工事に参ります」．

物事にあまり頓着しない中国人は，これまでなら適当に部品を買い，悪いのになるとこれに気楽な目の子算でコストを上乗せして，黙って工事をすることが多かった．しかし，このような押し問答は，会社におけるルール適用の厳しさや，それを守り通そうとする，従業員の決然とした態度を示していて，大変に興味深い．こうした傾向が浸透したとき，中国人のルール意識も次第に変わってくるものと思われる．

④　サービス精神も大きく変化した．中国でのサービスがかなりよくなった後も，商品の説明を聞いた後で，買わずに立ち去ろうとすると，態度が急変する売り子も少なくなかった．しかし，最近中国のデパートなどでは，サービス精神がかなり変化しているように思われる．

ある日，合肥市のデパートに，スーツケースを買いに行った．色や形，構造など，日本よりはるかに多様性に富んだ商品がずらりと並んでいる．（日本の場合スペースの厳しさが影響しているのかも知れない）加えて，中国人の品定めは，日本人の目から見ると，執拗を極めている．かつて粗悪品に悩まされた経験が，そうさせるのだろう．

しかし，最近の店員は，嫌な顔一つしない．さまざまに説明した後相手が買わなくても，嫌な顔をしてはいけないことになっているのだろうか．このデパートでも終始笑顔を崩さなかった．手ごろのスーツケースを2つ買い，「家まで送ってくれるか」と尋ねると，申し訳なさそうに，送ることはできないが，タクシー代（この頃合肥ではタクシー代は5キロまで5元であった）を出すし，一階の玄関（タクシーを拾う場所に近い）まで商品を運ぶから，持ち帰ってほしいという．大きなスーツケースを2個，玄関まで運んでくれた女店員に「ごめんね」というと，「とんでもありません」とにっこり微笑んだ．今日，中国のサービスは，日本のそれを凌駕しつつあるようにさえ思われる．

5）計画実行のすばやさ

中国では，大型プロジェクトの策定，実行が，日本に比べて比較にならないほどに早い．合肥市で調査した 合肥国家高新技術操業服務中心を例に取ろう．

これまで，優れた研究成果が生かされずにきたのにかんがみ，大学の研究成果と企業活動とを結び付けるためにこの機関が設立された．

ベンチャー経営者は，創業時に，この施設の中で，施設やノウハウの提供を受け，成功した場合には，一本立ちして外に出てゆく．その方針としては，3年以内に企業化に成功すれば自立させ，成功しないときには死亡させる．

90年代に入って設立されたこの施設は，4万平方メートルの広大な敷地をもち，明るくて使いやすい現代的な建物を持っているが，それもすでに満杯になっており，設立以来まだ10年にも満たないが，最近，成功した企業も多くなっていて，すでに5−6件の成功例があるという．

はじめ，国家の政策として，建物を作るのに，1億人民元を投下，その一部を国が負担し，残りを合肥市が負担した．この施設は，国家の政策として，損得を無視して運営されている．しかし，この施設建設のための投下資金まで回復するのは困難であるが，収支は償っているという．

この施設を合肥に持ってきた理由は，合肥が，中国の教育都市のひとつであり，そこには中国科学技術大学や合肥工業大学が在り，また38の部（省庁）の研究所がある．

また，合肥は，第2線にあり，第3線の研究所が，第2線にもどってきた．このような背景があるために，合肥は，こうした施設を作るために立地条件が整っている．

（付記）第3次大戦を予測した毛沢東が，防衛のため，海岸地帯を第1線，中間地帯を第2線，奥地の山岳地帯を第3線として，工業を分散する政策をとった．合肥市は，ちょうどこの第2線に位置してお

り，筆者が1993年に訪問した十堰市は，この第3線に位置している．

これらの大型プロジェクトが，かなりスケールの大きなプロジェクトであるにも関わらず，驚くほどの短期間に遂行されていることに注意したい．これだけの規模の施設が，政府の決断一つによってたちまち出来上がるというのが，中国の大きな強みの一つになっていると言えよう．

その背景としてまず浮かび上がってくるのは，土地の所有権が細分化されていないこと，このため，大型プロジェクトを実行するための用地が容易に確保できることである．

第2に，かなり権力的ではあるが，意思決定が，敏速かつ徹底した形（さまざまな形での妥協をすることなく）で行われ得ることである．日本では，成田空港の建設に想像を絶するほどの時間と多額の費用がかかったこと，万博などの大型プロジェクトを実行する場合，論議を尽くすという名目で，さまざまの利害関係団体が入り乱れて論議を戦わせ，結局妥協に妥協を重ねたプロジェクトとして，周囲が納得するという構造と対比すると，その効率のよさが理解できよう．

1990年当時，筆者自身，中国は日本との間に30年以上の開きがあると感じたものである．1995年に日本を訪れた中国の家族は，100年後の世界を見たと感動していた．しかし，その僅か10年後，ないし5年後，領域によっては，中国の方が先を行っているのではないかと疑われる（もちろん日本の方がかなり先を行っている分野も多いが）ものも少なくない．

いずれにしても，中国における明るい気分と，前向きの姿勢，ことを処理する素早さを見るとき，日本の暗さと気力の乏しさがひとしお感じられるこの頃である．「兵は勢いなり」をもじって言うならば，「経済も勢いなり」と言えようか．

最近の日本では，何故努力しなければならないのか分からなくなった，若者の話をよく耳にする．筆者の友人もこの事について真剣に悩んでいるようである．こうした意欲を殺がれた日本の若者たちを目の当たりにするとき，中国の若者たちの意欲に溢れた明るい顔つきが目に浮かぶ．成功の機会と失敗の危険に満ち溢れた社会では，若者たちは，大人たちが黙っていても，自ら努力を怠らない．

以上のような変化を目の当たりにして，中国の社会的•経済的発展が一節抜けたと感ずるのは著者だけであろうか．

1993年に中国を訪問したとき，ある中国の友人が，中国は繁栄しているように見えるが，それは表面だけで，その実態には問題が多く，外資が止まったら，中国の発展は止まるという発言をしていた．「それは面白い．論文に書いたら」と薦めると，彼の母親が「そこまでにしなさい」と彼をたしなめ，彼は慌てて口をつぐんだことがある．

今，外資は止まるどころか，ますます中国を無視することができなくなり，強力な米国といえども，さまざまの点で，中国に対する妥協を余儀なくされている状態である．10年後，20年後の中国は，どのようになっているのか，こうした発展の陰に潜む問題，市場経済化の中で条件が厳しくなりつつある福祉などの問題，中国の経済発展は，これらの問題を見事に解決するのだろ

うか．筆者は，改革開放政策のもたらした輝かしい部分と，日の光に陰が沿うように，それが生み出したさまざまの問題について検討し，その将来を探ってみたいと考えている．

了